

「大阪府みどりの広域計画（案）」に対する府民意見等と大阪府の考え方について

- 募集期間：令和8年1月28日（水曜日）から同年2月27日（金曜日）まで
- 募集方法：電子申請、郵送、ファックス
- 募集結果：4名から5件の意見提出がありました（うち意見の公表を望まないもの0件）

いただいたご意見に対する大阪府の考え方は以下のとおりです。

No.	意見等の内容	大阪府の考え方
1	大阪府市が進める都心部開発計画の大阪城東部地区について、大阪環状線の一部地下化、JR やメトロの車両基地を地下化または移転して緑地化することで、国際観光地の大阪城公園と知の森としての大阪公立大学のキャンパス一帯が一体となった広大な緑地帯を創り出すことが出来る。これを実現させれば、大阪都心部のみどりが大幅に拡張し、大阪の国際的な都市力アップに貢献できる。	大阪城東部地区については、「大阪城東部地区のまちづくりの方向性」（令和2年大阪府・市策定）に基づき、まちづくりの取組を推進しています。車両基地の部分については、将来的には、社会動向や地区内のまちづくりの動向を踏まえ、上部利用範囲の拡大や土地利用転換等も検討することとしています。 いただいたご意見については、今後の取組の参考とさせていただきます。
2	「万博で示された先端技術の活用」とありますが、万博に足を運んだが、具体的に何のどのような先端技術が示されていたのか理解できていないので、具体例を示してほしいです。 大阪府として、何をどのように活用していくのでしょうか。 ぼかしてなんとなく記述するのでは本当の意味でレガシーにはならない気がします。	万博会場では、例えば、ツル性植物を這わすだけの手法ではなく、垂直の架台に配置した植栽基盤に植物が植えられ、かつ、その植栽基盤をユニット化することによりメンテナンスしやすくしている「壁面緑化」の技術や、通気性・保水性・排水性に優れた軽量の植栽基盤材を用いた「屋上緑化」など、緑化に関する先端技術が多数披露されました。このような万博で示された先端技術や価値を万博のレガシーとして今後の大阪のみどり関連施策の推進に活用し、府民の皆様が実感できるみどりづくりに努めてまいります。
3	表紙と図と表にも、和暦と西暦を併記していただいた方がよりわかりやすいと思います。	本計画における年次の表記については、計画全体の読みやすさを考慮し、本文中では西暦和暦の併記を基本としております。 いただいたご意見を踏まえ、表紙、図、表につきましても、必要に応じて西暦和暦を併記するなど、わかりやすい表記となるよう修正します。

4	<p>「みどりの大阪推進計画」の改定ということだが、その計画で打ち出した「みどりの風」という概念や、風として通すことの推進、都市計画の規制緩和による緑化誘導などが、「大阪府みどりの広域計画（案）」には見受けられないが、前計画の改定なのか。前計画の考えは継承されないのか。前計画との乖離があるが、どういった見直しがなされて、本計画（案）になったのか。また、「みどりの風促進区域」の位置づけは継承されるのか。地区計画など定められた内容は継続されるのか。</p>	<p>「大阪府みどりの広域計画（案）」は、「みどりの大阪推進計画」の改定計画として、これまでの推進計画の基本的な理念や取組の方向性は引き継ぎつつ、策定後のみどりを取り巻く社会情勢の変化を踏まえ、みどりが有する多様な効果を最大限に引き出し、みどりの量の維持・増進をめざすとともに、質の向上に着目したみどりづくりを推進することとしています。みどりのネットワークづくりは引き続き重要であり、改定計画においても「みどりの風促進区域」の指定は継続します。ご意見を踏まえ、その旨計画本文にも追記します。また、同区域内における地区計画などの取組についても今後も継続していきます。</p>
5	<p>人工芝や舗装表面の温度抑制など、暑熱対策に資する技術・製品は、整備コストの低減に寄与するのみならず、利用者の安全性向上や利用促進につながり、地域環境の質の向上に貢献できるものと考えております。</p> <p>また、雨水貯留機能を備えたシステムを街路樹下層や天然芝下層に設置することで、下水道への雨水流出抑制に加え、災害時には応急的な給水施設としての活用も期待できます。これらの点から、防災・減災の観点においても有効であり、地域の魅力向上に資するものと考えております。</p>	<p>いただいたご意見については、今後の取組の参考とさせていただきます。</p>